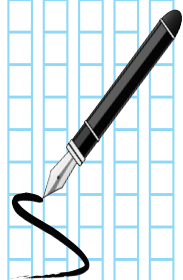


## 町長エッセイ



今、小川町が「青石の里」として注目されています。緑りよく泥石片岩でいせきへんがんである青石は、下里石と呼ばれるように、下里地内で現在も産出されています。町内に点在する板碑や石造物だけでなく、町立図書館の玄関フロアーなどに使用されるなど、小川町を代表する石材です。

この身近な採石地が「下里・青山板碑製作遺跡」として国指定の史跡となったことはすでにご承知のことと思います。

小川町を主体とする史跡指定は初めてで、早速遺跡のひとつ、割谷地区の遺跡に出向き、一面に青石が露出している様子を見てきました。その昔、この山に多くの職人たちが入り、ノミの音が響いたであろうと想像してみました。

南北朝時代から戦国時代に板碑形に加工された石材が、ここから現在の関東各地に送られていたことが長年の調査で明らかになりました。

下小川から下里にかけての槻川の河原では下里石などの岩石を見ることができ、青石は水に濡れると一段と色が鮮やかになります。遊歩道も整備される予定ですので、多くの方に小川町を訪ねていただき、これらを町の活性化につなげていきたいと考えています。